

ちとせ版ネウボラ

◎視察地 北海道千歳市・千歳市役所保健福祉部母子保健課

妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援について

(文責 古沢明子)

千歳市保健福祉部母子保健課より説明を受ける。

千歳市は北海道の空の玄関「千歳空港」があり、年間乗降客数は2千万人を超える。工業団地には多くの企業が立地、また、航空自衛隊千歳基地がある道央圏の中核都市である。総人口は96,346人、高齢化率22.6%、平均年齢42.9歳、年間出生数804人となっており、人口年齢構成の若い都市となっている。平成27年の国勢調査依頼、人口が2,044人増加しており、その増加要因の7割が自然増である。その一方で、就学前の子供のいる世帯の居住年数は5年以内が35%に達し、近くに知り合いがいないため、孤立しがち、との報告もある。また、6歳未満の子どもがいる世帯の93.6%が核家族であり、親族との同居が無いため、子育てに対して不安がある家庭が多い。そこで、「子育てするなら千歳市」をキャッチフレーズに『ちとせ版ネウボラ』事業に取り組んでいる。

◎子どもの健やかな成長

◎子育て世代の移住・定住促進

◎女性の妊娠・出産・就職の支援

◎住民のワークライフバランスの向上

◎家族や地域での子育て力の向上

以上5つのコンセプトの基、平成26年から30年までに38の事業を展開している。

『ネウボラ』とはフィンランド語で、ネウボ(neuvo)=アドバイス、ラ(ra)=場所という意味で、約70年前にフィンランドで発祥した制度であるとの紹介があった。フィンランド国内に800以上の拠点があり、特別な教育を受けたネウボラナース(保健師・助産師)がこまめに話を聞き、母親と子どもを中心とした家族全体を支援する制度との事である。

ちとせ版ネウボラは、母子保健コーディネーターがワンストップ窓口となり、妊娠・出産から18歳まで、それぞれの担当課と連携を取りながらシームレスで全ての妊婦、母子、子育て家庭に対して、直接のアドバイスや援助の機会を確保して、子どもたち一人ひとりの幸福を確保する取り組みである。

この制度により、子育てのしやすい環境が整い、もう一人生んでみようか、と思わせる政策であると思う。安心して子育てが出来る、両親にとっても魅力のある千歳市を目指していると感じた。